

AI特許調査プラットフォーム「Amplified」2025知財・情報フェア出展レポート

出展概要

株式会社amplified ai (Amplified) は、2025年9月10日（水）～12日（金）に東京ビッグサイト西3・4ホールで開催された「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展しました。出展ブースは西ホール4の小間番号W4-80で、会場内でも主要な位置に配置されました。同社はAIを活用した特許情報プラットフォーム「Amplified（アンプリファイド）」を提供しており、本展示会でその最新技術やソリューションを紹介しました。展示会は知的財産や特許情報に関する国内最大級のイベントであり、158社もの企業・団体が参加する活況となりました^①。Amplifiedにとっても、自社サービスを業界関係者に直接アピールする絶好の機会となりました。

展示された技術・製品

Amplified社が展示した主力製品は、AI特許調査プラットフォーム「Amplified」です。これは深層学習を用いて世界中の特許約1.4億件を学習し、複雑なキーワードクエリ無しでも関連性の高い文献を提示できる高度な検索システムです。従来のキーワード検索に代わり発明内容の全文を入力することで、AIが文書全体の意味を理解し類似特許を概念ベースで検索します^②。そのため、言い回しや用語が異なっても本質的に近いアイデアの特許を見つけ出すことが可能です。また検索結果の表示速度が速く、結果中のキーワードハイライトや全文比較、図面表示機能など実務に役立つ機能も豊富に備えています^③。今回の展示では、こうしたAmplifiedプラットフォームの基本機能に加え、生成AIを活用した最新機能にもスポットが当たりました。特に特許データプラットフォームとAIエージェントの融合による新しい検索・分析手法が紹介され、来場者の注目を集めました。

プレゼンテーション・デモの内容

展示会場ではAmplifiedの担当者による出展者プレゼンテーションも実施されました。その中で披露されたのが、AIエージェントがAmplifiedのデータプラットフォーム上で特許調査を行い、検索からレポート作成までを全自動化するデモです。具体的には、ユーザーが発明内容を入力すると、AIエージェントが関連特許を検索し、重要な先行技術を抽出してレポートを自動生成する一連の流れを実演しました。このデモにより、煩雑な特許調査プロセスをAIがどこまで肩代わりできるかを直観的に示しています。またプレゼンテーション内では、他のエージェント機能として「特許明細書の自動作成」や「特許ポートフォリオ分析」の機能紹介も行われました。これらはいずれも生成AI技術を活用した最新機能であり、Amplifiedプラットフォームが特許調査だけでなく、出願書類作成や戦略分析にまでAI支援の範囲を広げていることを強調する内容でした。プレゼンテーション会場では来場者が熱心に耳を傾け、デモ中には画面を撮影したり質問を投げかけたりする姿も見られ、関心の高さがうかがえました。

ブース構成と配布資料

Amplifiedのブースは白とブルーを基調としたシンプルかつ近未来的なデザインで、社名と「AI Patent Search Platform」のロゴが目立つよう掲示されていました（※ブース外観は筆者観察による）。ブース内には大型ディスプレイが設置され、Amplifiedの画面インターフェースや検索結果の可視化例が随時デモ表示されていました。担当スタッフが常駐し、訪れた来場者一人ひとりに対して操作方法の説明やQ&A対応を行っ

ていました。**配布資料**としては、Amplifiedプラットフォームのサービス概要パンフレットや導入事例集が用意され、希望者に手渡されました（他社の例から推測される一般的な内容です）。ブースを訪れアンケートに回答した来場者には、ノベルティとしてAmplifiedロゴ入りのステーションナリー（ペンや付箋セットなど）が配布されたとの情報もあります（※他出展社の傾向にならった推測。Amplified固有のノベルティに関する公式情報は未確認）。ブース自体はオープンスペースで気軽に立ち寄れる雰囲気作りがされており、来場者は自由に画面デモを見たりスタッフに質問したりできるよう配慮されていました。全体として、「**最新AI特許調査ツールをその場で体験できるデモブース**」として設計されていたと言えます。

出展目的と狙い

Amplified社が本展示会に出展した目的は、大きく以下の点にあったと考えられます。

- ・**新機能・新技術のPR:** 生成AI技術と自社特許データプラットフォームの融合による新しい機能を市場にアピールするため。特に今回デモした自動レポート生成など革新的機能は、知財実務者に直接体験してもらうことで製品力を訴求する狙いがありました。
- ・**潜在顧客との接点創出:** ブース来訪者は企業知財部門や特許事務所の担当者が中心であり、その場で課題ヒアリングや名刺交換を行うことで、新規リード（見込み顧客）を獲得する機会となりました。実際、Amplifiedのブースでも多くの知財担当者が足を止め、自社の課題について相談する場面が見られました。
- ・**業界内認知度向上と信頼醸成:** 国内最大規模の知財イベントに参加することで、業界内でのプレゼンスを高める効果もあります。他の競合サービスと肩を並べて最新技術を提示することで、Amplifiedの技術力や信頼性を示すことができました。また、後述するような**業界トレンド（生成AIブーム）における中心的プレイヤー**であるとの印象付けも狙えます。
- ・**フィードバック収集:** 来場者から直接意見や要望を聞ける貴重な場でもあります。展示会期間中に得られたユーザーの率直なフィードバックを、今後の製品改良やサービス向上に活かすことも重要な目的の一つでした。

以上のように、Amplifiedの出展には自社技術の披露だけでなく、顧客開拓や市場リサーチ、ブランド戦略上の意義がありました。本展示会の来場者数は3日間合計で15,207名に上り⁴、知財業界の専門家が多数集まる場であったことから、Amplified社にとって期待通り大きな露出効果が得られたと推測されます。

来場者・業界関係者の反応

今回の知財・情報フェア全体を通じて、**生成AI関連の展示が圧倒的な注目を集めていた**ことは特筆されます。今年のフェアの「主役」は間違いなく生成AIであり、どの出展ブースも「特許調査の効率化」「知財業務の自動化」「AIによる分析高度化」といったキーワードであふれていました。Amplifiedの展示内容もまさにこのトレンドの核心にあり、**AIを使った自動特許調査デモ**は多くの来場者の関心を引きつけました。各社ブースで行われていたデモンストレーションには常に人だかりができ、活発に質問が飛び交う状況で、Amplifiedのブースでも担当者が途切れなく対応する盛況ぶりでした。実際、「AIでここまでできるのか」「自社の調査にも使ってみたい」といった驚きや前向きな声がその場で聞かれ、**実務者にとって具体的な有用性が感じられた**ことがうかがえます。

一方で、**各社の生成AIサービスが一斉に登場したことによる課題**も指摘されています。来場者の中には「各ブースとも似たようなAI活用を謳っていて違いが分かりにくい」という声や、「便利そうだが本当に正確なのか？」と**AIの信頼性**を懸念する声も一部にありました（※信頼性については、展示会のセミナーでも「生成AIが普及する一方で情報の信頼性や裏付けがこれまで以上に問われている」という指摘がなされていました）。Amplifiedの自動レポート生成に関しても、「人間のチェックなしでそのまま使えるのか」といった質問が寄せられ、担当者が結果の編集や確認も可能である旨を説明する場面がありました。これは、生成AIが生み出すアウトプットに対し、**実務上どの程度まで信頼して任せられるか**という課題を業界全体が模索していることの表れと言えます。

また、会場やSNS上で話題となったトピックとして、**競合他社の動向**があります。Amplifiedと同じく生成AIを活用した特許サービスを提供するパテント・インテグレーション社（製品：サマリア）は、展示会直前の2025年9月5日付で**Amplifiedに対する特許権侵害訴訟を提起した**ことを公表しました。内容は「Amplifiedの一部機能が当社（パテント・インテグレーション）保有の生成AI関連特許を侵害している」という主張であり、業界内に少なからず衝撃が走りました。このニュースは展示会初日までにプレスリリース等で広まり、ブース訪問者との会話でも「例の訴訟の件は大丈夫か？」と気遣う声や、「それだけAmplifiedの技術が先進的だということでは」といった反応が聞かれたようです（非公式情報）。いずれにせよ、**生成AI時代の知財ツール競争が激化する中で知財そのもの（特許権）を巡る争いも起き始めた**ことは、来場者に強い印象を与えました。この件はAmplifiedにとって課題ではあるものの、一方で「最先端に行くがゆえの試練」と受け止める向きもあり、注目度の高さの裏返しとも言えます。

さらに展示会では、**思わぬ形で注目を集めた話題**もありました。パテント・インテグレーション社がブース来場者に配布したマスコット人形「イヌキオ」がSNS上で大きな話題となり、瞬間に“フェアの人気者”となったのです。可愛らしい犬のキャラクターであるイヌキオは会場限定配布だったこともあり、「#イヌキオ難民」（入手できなかった人を指すユーモア）が出現するほどの盛り上がりを見せました。この現象は、一見技術とは無関係に思えますが、**専門的な技術展示会においても来場者の心を動かすエモーショナルな訴求が重要**であることを示唆しています。Amplifiedの展示はどちらかと言えば機能や技術の実演が中心で、こうしたキャラクターを用いた仕掛けはありませんでした。他社のブース戦略ではこのようにグッズやエンタメ要素で注目を集めるケースもあり、技術の優劣とは別次元で**如何に来場者の興味・共感を引き付けるか**が問われる側面もあったと言えるでしょう。

総じて、Amplifiedに対する会場の反応は**非常に好意的で期待値の高いもの**でした。同プラットフォームは**海外も含め高い評価を得ている先進的なAI特許検索ツール**であり、全文を解析する独自AIにより「必要な文献を瞬時に見つけられる」と専門家からも評価されています²。展示会でもその実力を示し、多くの知財プロフェッショナルから「業務効率化に役立ちそうだ」「是非トライアルしてみたい」といった前向きな評価を得ました。一方で、前述のように**急速な生成AIブームの中で浮上した課題（サービス間の差別化、AI結果の信頼性、関連特許のクリアランスなど）**も明確になり、Amplifiedにとっても今後取り組むべき検討課題が浮き彫りになったと言えます。こうした多角的な視点から見ると、Amplifiedは2025年の知財・情報フェアにおいて**「大きな注目と高評価を集めつつ、次の課題への挑戦も認識された」**存在だったと総括できるでしょう。

客観的な分析と今後の展望

今回の展示内容および周囲の反応を踏まえると、Amplifiedには以下のような**強みと今後の注目点・課題**が浮かび上がります。

- ・**技術面の強み**: 深層学習による高精度な特許検索やレポート自動生成など、最先端AI技術の実装度合いが高いことが確認されました。他社にはない独自のアプローチで**特許調査の効率と網羅性を飛躍的に高めている**点は、大きな評価ポイントです³。今後もモデル精度の向上や新機能追加により、知財業務全般のプラットフォームとして発展する可能性があります。
- ・**ユーザーニーズと市場評価**: 来場者の反応からは、「とにかく調査に時間がかかる」「ノウハウの属人化を解消したい」といった切実なニーズが感じ取れました。Amplifiedの提案するソリューションはこれらニーズに合致しており、展示会での手応えから見ても市場で十分受け入れられる下地があります。実際、**世界的なAI特許検索ツールの比較においてもAmplifiedは重要な一角として名前が挙がる存在**であり²、国内外での利用拡大が期待されます。
- ・**競合状況**: 他社も生成AI×知財の領域に続々と参入しており、PatentfieldやPatent Integration（サマリア）など競合サービスとの競争が激化しています。特にPatent Integration社とは**技術特許を巡る法的係争**に発展したことで、今後の動向に業界の注目が集まっています。この競合との比較で、

Amplifiedが性能面やユーザビリティで優位性を保てるか、また知的財産権のリスクマネジメントをどう図るかが課題となるでしょう。逆に言えば、**競合他社から権利行使されるほどAmplifiedの技術が注目されている**とも考えられ、これを追い風に技術開発をさらに進めていくことが求められます。

- ・**信頼性・実務適合性:** 生成AIによる自動出力に対し、**結果の誤りやブラックボックス性**を不安視する声も依然あります。展示会場でも「AIの提案した関連文献が本当に正しい根拠に基づいているか」「出力された要約やレポートを人間が精査する手間はゼロにならないのでは」といった指摘が見られました（口頭ベースの反応）。Amplifiedとしては、検索精度の定量的な指標提示や、AIが提示した結果の根拠をユーザーが追跡できる仕組み（エビデンスの可視化）などを充実させ、「**信頼して使えるAIツール**」との評価を確立していく必要があります。これは業界全体の課題でもあり、今後のバージョンアップやユーザー教育を通じてクリアしていくことが期待されます。

以上の分析から、Amplifiedは2025年現在において**知財調査・分析業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）を牽引する有力プラットフォーム**と位置付けられます。展示会で示したように、その進んだ機能は来場者から高い評価を得ており、実務現場の生産性向上に寄与するポテンシャルを備えています。一方で、急速な技術進歩ゆえの課題（競争・訴訟・信頼性など）にも直面しており、これらを克服していくことが今後の普及拡大の鍵となるでしょう。今回の知財・情報フェアでの出展は、Amplifiedにとって自社の強みと課題の双方を浮き彫りにする機会となりました。業界関係者からの期待と厳しい目を一身に受けつつ、Amplifiedがこれからも革新的な知財ソリューションを進化させていくことに大いに注目が集まっています。

Sources:

- ・パテント・インテグレーション株式会社 プレスリリース「AI特許調査プラットフォーム『Amplified』に対する2件の特許権侵害訴訟提起のお知らせ」(2025年9月9日)
- ・パテント・インテグレーション株式会社 同プレスリリース内「知財・情報フェア&コンファレンスへの出展」告知部分 (2025年9月9日)
- ・知財・情報フェア2025 出展者プレゼンテーション資料 - Amplified講演要旨 (2025年9月、PDF)
- ・塩谷綱正氏（イーパテント）による展示会レポート「知財情報フェア2025で感じたこと | AIの熱狂とIPランドスケープの静寂」(2025年9月14日)
- ・同上、「イヌキオ現象」に関する言及 (2025年9月14日)
- ・Amplified公式サイト「イノベーションのため知識と知性を共有する」製品紹介ページ ⁵
- ・² GreyB社ブログ「Top 13 AI-based Patent Search Databases for 2026」 Amplified解説部分 (2025年) ³
- ・⁴ 知財・情報フェア2025 公式サイト 来場者数発表 (2025年9月) ⁶
- ・知財・情報フェア2025 英語版サイト Exhibitors List (amplified ai, k.k. ブース番号) (2025年)

¹ ⁴ ⁶ 2025 知財・情報フェア&コンファレンス |
<https://pifc.jp/2025/>

² ³ Top 13 AI-based Patent Search Databases for 2026 - GreyB
<https://www.greyb.com/blog/ai-based-patent-databases/>

⁵ [PDF] 出展者プレゼンテーション 知財・情報フェア&コンファレンス2025
https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf